

沖縄キリスト教学院大学FD委員会
(編・著)

2015年度 後期

学生による授業改善アンケートと
改善に向けての取り組み

巻頭言

第1章 授業改善アンケート結果の概要

第2章 科目・クラス別の数値及び自由記述

付 録 満足度調査報告書

巻頭言

2015年度 後期

学生による授業改善アンケートと改善に向けての取り組み

沖縄キリスト教学院大学

学長 中原 俊明

- 1、この度、2015年度後期の学生による授業改善アンケートの総まとめである報告書が完成し、公刊の運びとなった。当学院大学・大学院のFD委員会メンバーの周知な準備と取り組みの成果であり、そのご尽力に改めて感謝したい。2014年度に、その名称の変化が示すように、「授業評価アンケート」から「授業改善アンケート」へと大幅な改革をなし、今年度は質問項目も従前の21から29項目へと増やして、全90科目、111クラスで実施し、質量とも改善強化の成果を示すべくまとめられた。以下では3つの点にふれたい。
- 2、第1に、「履修動機」に関し、欠席回数調べでは約6割が皆出席だが、授業への準備や発展的学習を実践している者が6割台なのは宿題が残る。第2に、学生による教師の授業への反応や評価で、教師の授業での話し方、授業内容の量と質（明確さ等）、事前準備、宿題の適否、新たな発想への誘導、専門分野での知識伝達効果、等でいずれも8割超での好反応である。更に、授業への総合的な評価として、授業による自己の成長感、専門的興味の深化、理解の容易さ、授業の満足度等でも、8割から9割近くの肯定的な反応であり、安堵する。
- 3、第3に、学生達の自由記述による反応も興味深い。建学の精神（キリスト教、沖縄、平和）との関連を念頭に、若干取り上げてみる。キリスト教関係科目で「今まで知らなかったキリスト教を知り、聖書も読むことができよかった」「留学するときキリスト教の人々との共通の会話ができる」「聖書の観点から私たちの身近な課題を考えることができた」。文化人類学では「新しい自分を見つけられた」、Discussion and Debateでは「難しい話題でも無理矢理に英語で話せた」「社会に関心を持ち自分自身の意見ももてた」。Current Issues in Englishでは、「大学生に必要なcritical thinkingを養うことができた」「社会問題を英語で話す能力が身に付いた」。沖縄経済学では「沖縄県の何が最高水準で、何が最低水準なのか学んで、県民性を改めて見直した」。Investigative Reportingでは「沖縄の問題について英語でのレポートがあり、英語力が伸びた」。Public Speakingを学んだ学生からは次のような英語での反応もあった。This lesson improved my English skills, and made me feel confident to talk in front of people.
- 4、全体からの印象として、教師は懸命に励み、学生達もまたこれに応え、有益な学びをしつつある。それが本学院の発展可能性を感じさせる。

沖縄キリスト教学院大学

FD委員会委員

(2015年度 後期)

中原俊明 (委員長・学長)

金永秀 (委員・人文学部長)

Christopher Valvona (委員・英語コミュニケーション学科長)

金城繁正 (委員・企画推進課課長)

執筆者

大城直人 (英語コミュニケーション学科 准教授)

沖縄キリスト教学院大学

2015年度 後期

学生による授業改善アンケートと

改善に向けての取り組み

第1章

学生による授業改善アンケート結果の概要

はじめに

2014年度前期より、従来の授業評価アンケートを大幅に見直しリニューアルを図った。変更点は多岐に渡るが、何よりも重要なことは、授業評価アンケートが教員の授業改善の参考資料となるよう、工夫をほどこした点である。つまり、学生による授業評価が教員管理に流用されることなく、教員自身の自己管理、自己研鑽の材料となるよう留意した。

また、学生たちとともに授業を創るという理念のもと、学生の回答に対する教員のコメントを付記することで、教員が学生とともに授業改善を行えるようにしており、名称も従来の「授業評価アンケート」から「授業改善アンケート」に変更した。具体的な変更点は以下の通りである。

- ① 質問項目が大幅に増え、授業改善に資する項目が増えている。全体で従来の21の質問項目から29の質問項目へ増やし、「履修動機についての質問」「学生自身の授業への取り組み」「授業への評価」「授業から得られた達成度」「総合的評価」「記述回答」の6つのカテゴリーに分類した。各教員が個々に、また、学部全体として、アンケート調査を分析的に検討を行えるようにした。
- ② 従来、13～14週目の講義終了間際の10分間で実施していたが、授業開始直後に15分間を確保しアンケートの回答に充てる。教員はアンケート実施中に退席することなく、学生の真剣な取り組みを促す。学生にとっては、「振り返り」という教育的な意義があり、教員の側としては、しっかりとした記述回答の時間を学生に保障し、よりよい改善のための資料を得ようとする意図がある。
- ③ 授業改善アンケートの数値的評価、記述によるコメントは、授業ごとに学内HPで公表し、担当教員の改善に向けてのコメントを付す（コメントは200字以内）。公表されたアンケート結果とそれに対する教員のコメントを目にすることで、学生たちは、自らのコメントが授業改善に生かされることを自覚し、より真剣にアンケートに回答するようになることが期待される。また教員は、自らの授業への説明責任を果たす機会を得ることができる。さらに公表された授業改善アンケートは、シラバスとともに次学期以降の学生の授業選択の材料ともなる。

リニューアルした質問項目の意図を以下に説明する。

履修動機について（質問 1）

この質問は、「履修者数」「回答者数」と照らし合わせて、当該クラスの履修者の状況を把握することが目的である。授業者が個々の質問項目への回答を検討する際に必要なデータとなる。具体的には次のような質問である。

質問1 履修動機 3つを選択せよ

①授業内容に関心があったから ②教員に魅力があったから ③単位がとりやすそうだから ④友だちが多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため ⑦先輩に勧められたから ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく ⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから ⑩その他

I. 学生自身の授業への取組（質問2～6）

従来の授業評価アンケートは、教員の授業を学生が評価する、という意味合いを有していた。しかし、授業とは教員と学生とがともに創り上げるものであり、学生自身の取り組みもまた自省されなくてはならない。また、どれほど積極的な学びを促すことができたかを教員は確認しなくてはならない。具体的には次のような質問を用意した。質問のあとに選択肢が示されていない限り、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う ⑥質問がこの授業に該当しない」という評価である。

質問2	欠席回数	(①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)
質問3	真面目に授業参加	
質問4	事前準備	
質問5	発展的学習	
質問6	週平均の授業時外学習時間	(①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上)

II. 学生による教員への授業評価（質問7～19）

この質問群では、狭義の授業評価アンケートといえるもので、教員の授業技術、方法、内容などの具体的な事柄を問うており、教員は改善点を見出すことができる。具体的には次のような質問を用意した。

質問7	聞きやすい話し方	
質問8	各回の授業内容の量が適切だった	
質問9	各回の授業内容は明確だった	
質問10	授業を乱す行為への対応	
質問11	教科書は妥当であった	
質問12	補助教材は効果的であった	
質問13	板書の仕方（パワーポイントなど）	
質問14	講義法以外の教授法（討論・発表など）	
質問15	教員の授業準備	
質問16	宿題・課題など	(①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問17	クラスの規模（受講学生数）	(①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)
質問18	成績評価の基準の明確	
質問19	授業実施教室は適切か	

Ⅲ.授業を受けて得たもの（質問20～22）

この質問群では、学生がこの授業をうけて得たものを確認している。学生の達成度に関わる質問である。また、大学の授業において、学問的知識、専門的な知識、新しい考え方などを獲得することは重要であり、分かりやすい授業を目指すと同時に、高い専門性等を維持することが大学の教員には求められている。以下の質問項目を用意した。

質問 20	新しい考え方・発想／能力の向上
質問 21	基本的な専門知識
質問 22	意見をまとめて他者に伝える技術

Ⅳ.授業の総合的な評価（質問23～26）

この質問群では、これまでの質問群を踏まえたうえで、授業の総合的な評価を行う。数値による総括的な評価である。しかし、ここで留意しなくてはならないことは、数値による授業評価が、教員評価、教員管理に容易に流用されかねない恐れである。大学の授業は、学生に分かりやすく行われるべきものであるが、それと同時に学問的・専門的知見に基づき行われるものである。学生に対して迎合的であってもいけない。あくまでもこの種のアンケートは教員個々人の授業改善を目的にして行われるべきであり、各教員の自省と研鑽と自己管理の材料として活用されるべきものである。その意味で、次の「記述による評価」と合わせて検討されるべきものである。具体的な質問項目は次の通りである。

質問 23	この授業で、自分自身が成長できた
質問 24	学問的・専門的興味をかきたてられた
質問 25	わかりやすい授業だった
質問 26	この授業を受けて満足した

記述による評価

数値による評価は比較を行う際や、全体を俯瞰する際には有効であるが、記述による評価の方が、授業改善には有効である。学生たちに、記述をより具体的に行ってもらえるように、アンケート時間を10分から15分に伸ばし、授業終了後から授業開始直後に行うようにした。ひとつひとつのコメントを丁寧に検討し、授業改善につなげていただきたく、具体的には以下の質問項目を用意した。

質問 27	この授業で良いと思ったこと
質問 28	この授業で改善すべきだと思った点
質問 29	教員が用意した質問

このような授業改善アンケートを全90科目、111クラスにおいて実施した。投与された評価表は2483件に上った。

1 学生による授業改善アンケート結果の概要

授業改善アンケートは、基本的に各教員と生徒たちの対話に基づく授業改善の材料を提供するものである。よって各教員の検討と分析が求められるものである。その内容に関しては、「記述による評価」や「授業改善アンケートへの教員コメント」を参照いただきたい。

しかし、数量的なデータを俯瞰することにより、学部全体での課題がみえてくるものでもある。全体的な統計にそぐわない質問項目もあるが、全体の平均値や、選択肢の選択率を示し、若干の考察を加えたい。

質問項目	度数	平均値
質問1 履修動機(3つまで) (①授業内容に関心があったから ②教員に魅力があったから ③単位がとりやすそうだから ④友だちが多く履修しているから ⑤自分の専門に関係が深い分野だから ⑥幅広い教養を身につけるため ⑦先輩に勧められたから ⑧希望授業が取れなかったのでは仕方なく ⑨必修(あるいは免許取得に必要)だから ⑩その他)	6144	-
質問2 欠席回数 (①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席)	2559	3.40
質問3 真面目に授業参加	2553	4.15
質問4 事前準備	2574	3.81
質問5 発展的学習	2572	3.66
質問6 週平均の授業時外学習時間 (①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上)	2572	-
質問7 聞きやすい話し方	2574	4.33
質問8 各回の授業内容の量が適切だった	2583	4.35
質問9 各回の授業内容は明確だった	2572	4.33
質問10 授業を乱す行為への対応	2554	4.34
質問11 教科書は妥当であった	2572	-
質問12 補助教材は効果的であった	2569	-
質問13 板書の仕方(パワーポイントなど)	2495	4.25
質問14 講義法以外の教授法(討論・発表など)	2566	-
質問15 教員の授業準備	2556	4.42
質問16 宿題・課題など (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2571	3.06
質問17 クラスの規模(受講学生数) (①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる)	2579	3.05
質問18 成績評価の基準の明確	2569	4.16
質問19 授業実施教室は適切か	2573	-
質問20 新しい考え方・発想/能力の向上	2564	4.18
質問21 基本的な専門知識	2564	4.14
質問22 意見をまとめて他者に伝える技術	2555	-
質問23 この授業で、自分自身が成長できた	2561	4.18

質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた	2564	4.12
質問 25 わかりやすい授業だった	2563	4.23
質問 26 この授業を受けて満足した	2563	4.28

上記の表では、設問毎の平均値等を掲げた。質問 6、質問 1 6、質問 1 7 の選択肢は表中に記した。それ以外の選択肢は、「①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う」である。質問 1 1、質問 1 2、質問 1 4、質問 2 2 には「⑥質問がこの授業に該当しない」の選択肢が付加されている。平均値を表すのに不適切な質問 1、質問 6、質問 1 1、質問 1 2、質問 1 4、質問 2 2 には表中に「-」を記入した。

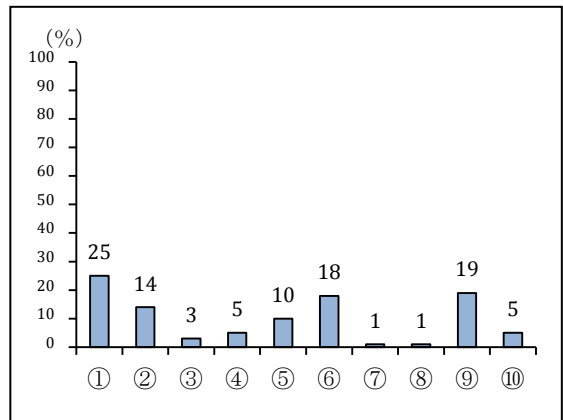
また、以下に各質問の選択肢の選択率のグラフを示している。比率の表記は少数点第一位を四捨五入した形で示し、また、欠損値を除いた有効パーセントで示している。

履修動機について（質問 1）

質問 1 この授業を履修した動機を最も適切なものを3つ選択して下さい。

- ①授業内容に関心があったから
- ②教員に魅力があったから
- ③単位がとりやすそうだから
- ④友だちが多く履修しているから
- ⑤自分の専門に関係が深い分野だから
- ⑥幅広い教養を身につけるため
- ⑦先輩に勧められたから
- ⑧希望授業が取れなかったので仕方なく
- ⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから
- ⑩その他

質問 1 履修動機



履修動機について最も多いのは、「①授業内容に関心があったから」（25%）であり、「⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから」（19%）、「⑥幅広い教養を身につけるため」（18%）、「②教員に魅力があったから」（14%）がそれに続く。履修選択に際しては、授業内容や専門分野との関連性等を重視しており、積極的理由に基づいた選択がなされていることが伺える。

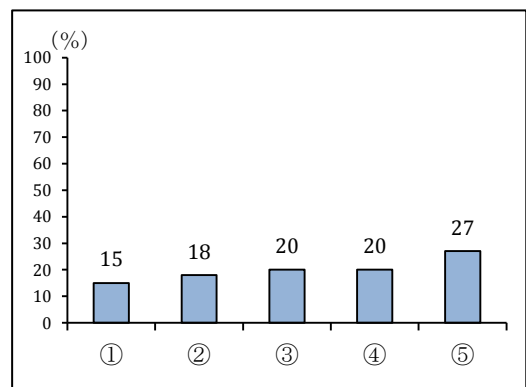
履修動機は、2014年度後期の結果とほぼ同じ結果（最大差異1%）を示しているが、2015年度前期は、「⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから」が23%を占め、今学期との差異が4%となっている。これは、前期に必修科目がより多く開設されていることを示唆していると思われるが、その結果、「①授業内容に関心があったから」、「⑤自分の専門に関係が深い分野だから」については、前期・後期で2%の差異が生じており、分析においても留意すべき点と言えるだろう。

I. 学生自身の授業への取組（質問 2～6）

質問 2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか。

- ①4回以上
- ②3回
- ③2回
- ④1回
- ⑤皆出席

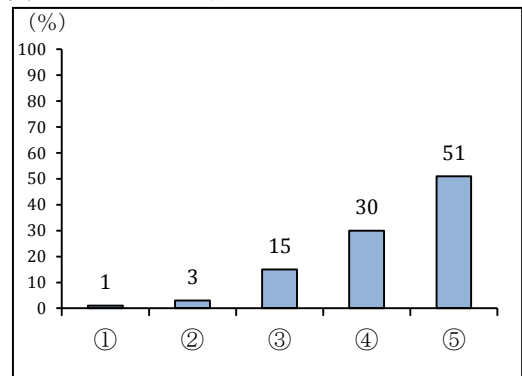
質問 2 欠席回数



質問3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

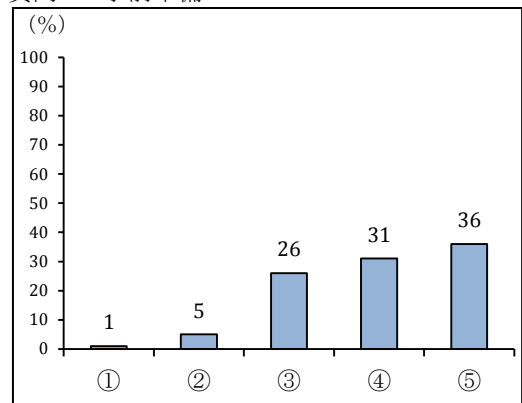
質問3 真面目に授業参加



質問4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

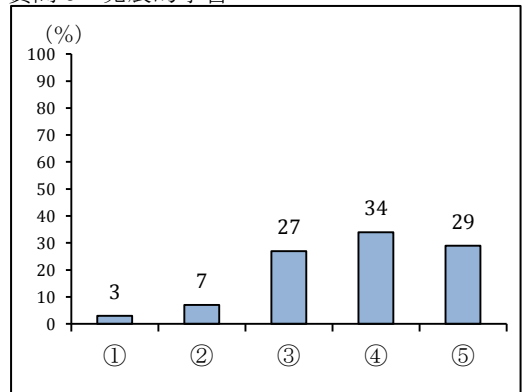
質問4 事前準備



質問5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

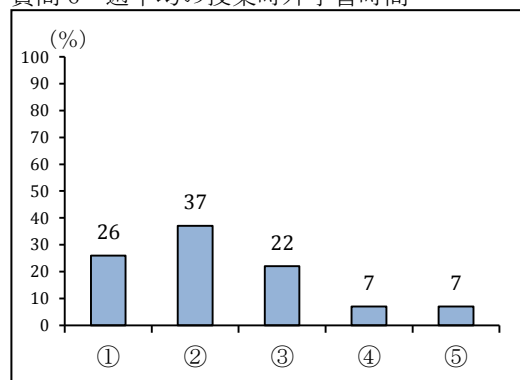
質問5 発展的学習



質問6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で）

- ① ほぼ0時間
- ② 1時間未満
- ③ 1～2時間
- ④ 2～3時間
- ⑤ 3時間以上

質問6 週平均の授業時外学習時間



質問2の欠席回数に関しては、「⑤皆出席」が27%を占めているが、2014年度後期の結果（25%）と比べると、2%増となっている。一方、2015年度前期の結果（32%）と比べると、5%減となっている。また、「①4回以上」の欠席は15%を占めており、2014年度後期の結果（16%）より1%減、2015年度前期の結果（10%）より5%増となっている。前期・後期の比較では、後期において、皆出席率が減少し、4回以上の欠席率が増加する傾向にあると言える。この結果は、先述したとおり、選択必修科目も含め、前期に必修科目が多く開設されていることとも無縁ではなかろう。本来、必修のいかんを問わず、出席することが当然だが、必修か否かという条件が出欠の判断要因となっているのであれば忌々しきことである。今後、欠席の理由を問う質問項目を追加することで、勤怠状況の改善に資する知見が得られるのではないだろうか。

質問3の真面目に授業参加に関しては、「⑤大いにそう思う」（51%）と「④そう思う」（30%）を合わせると81%を占めており、2014年度後期の76%、2015年度前期の76%と比べ5%増となっている。受講態度については、経年ごとに改善してきていることが伺える。また、質問4の事前準備についても、「⑤大いにそう思う」（36%）と「④そう思う」（31%）の合計が67%で、2014年度後期の63%、2015年度前期の61%と比べ、4～6%の増となっている。この結果は、授業に対する真面目な態度と事前準備との関連性を示唆している。履修科目の選択・登録に際して、適切な指導や助言を行うことの必要性を明示していると言えるだろう。さらに、質問5の発展的学習については、「⑤大いにそう思う」（29%）、「④そう思う」（34%）の合計が63%で、2014年度後期の61%、2015年度前期の55%と比べ、2～8%の増となっている。この結果から、発展的学習と授業に対する真面目な態度との間にも関連性が推測される。内容や質の面で魅力ある授業が、学生の好ましい受講態度を誘引し、発展的学習の実行を促進させるとすれば、教師の果たす役割の重要性も看過できない。

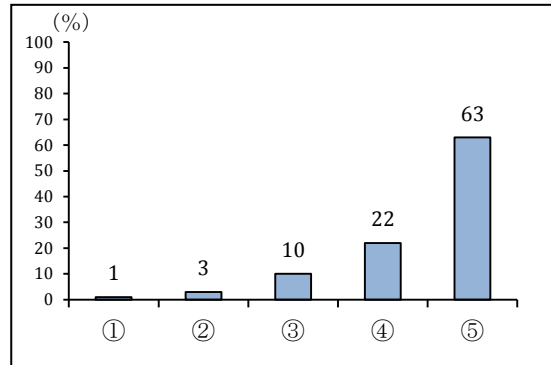
一方、質問6の授業時外の学習時間については、1コマ90分の授業に必要とされる3時間の授業外学習に取り組んだ割合は7%で、2014年度後期の8%、2015年度前期の8%と大差なく、受講態度の改善や発展的学習の増加とは矛盾する結果となっている。学習の質的改善だけでなく、量的改善が図られることを今後学生たちには期待したい。

Ⅱ.学生による教員への授業評価（質問7～19）

質問7 聞きやすい話し方だった（スピー
ド・音量・マイクなども含む）

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

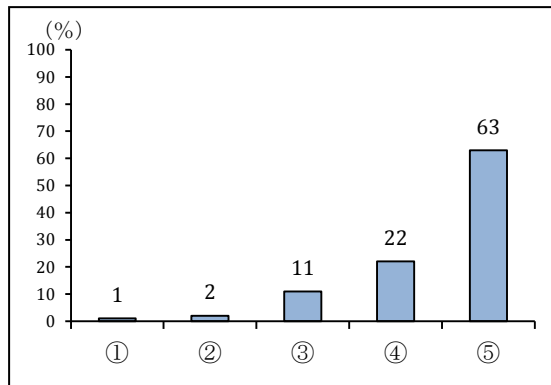
質問7 聞きやすい話し方



質問8 各回の授業内容の量が適切だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

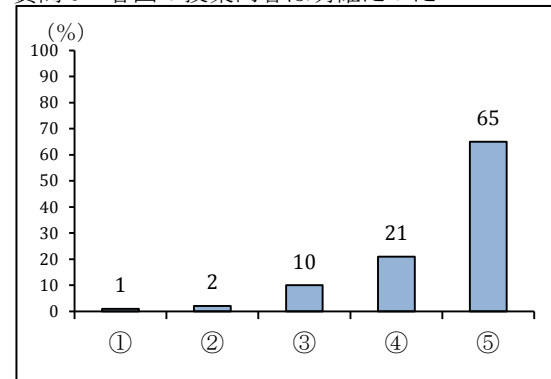
質問8 各回の授業内容の量が適切だった



質問9 各回の授業内容は明確だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

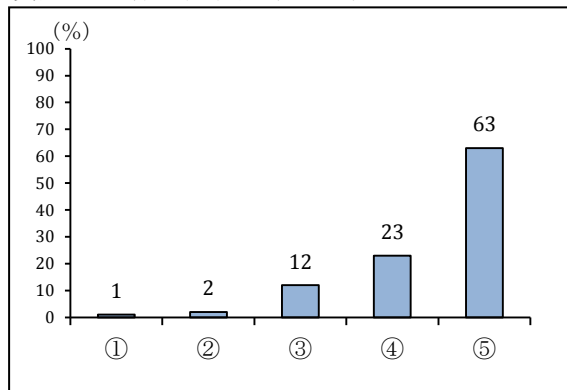
質問9 各回の授業内容は明確だった



質問 10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

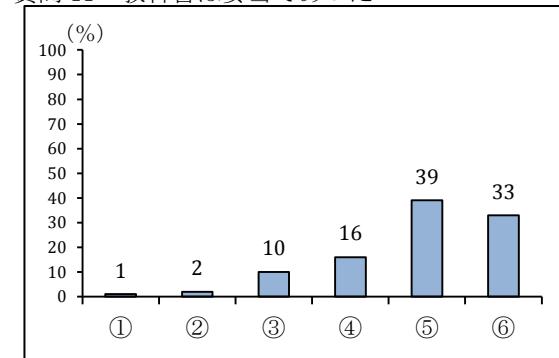
質問 10 授業を乱す行為への対応



質問 11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

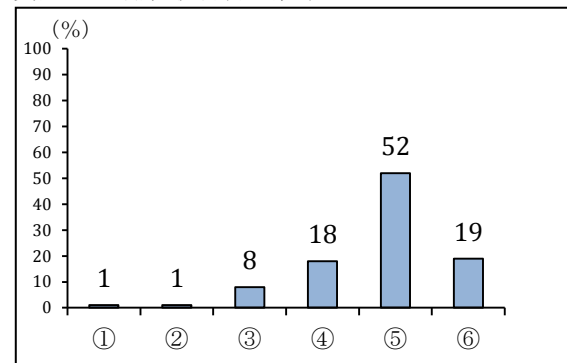
質問 11 教科書は妥当であった



質問 12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

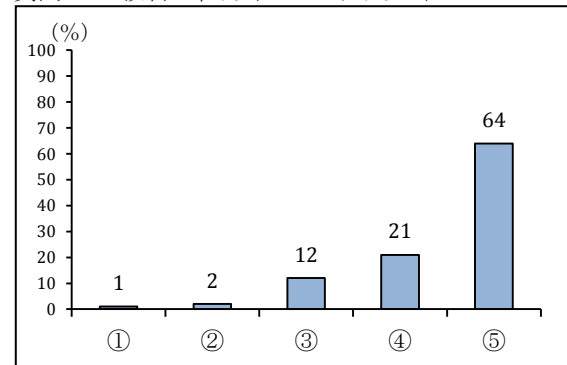
質問 12 補助教科書は効果的であった



質問 13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

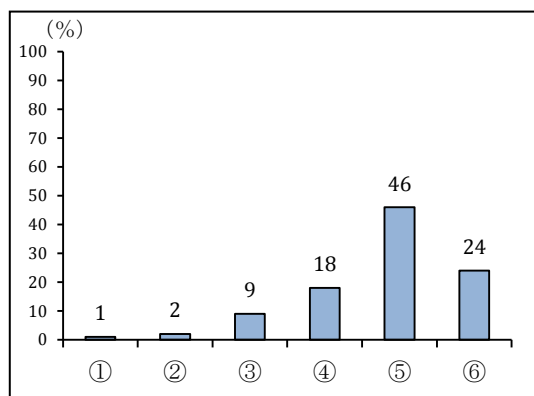
質問 13 板書の仕方（パワーポイントなど）



質問 14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う
- ⑥ 質問がこの授業には該当しない

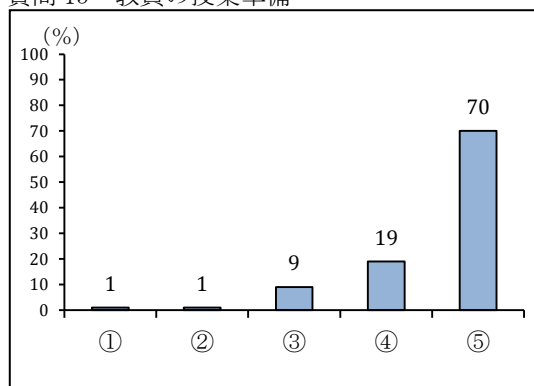
質問 14 講義法以外の教授法（討論・発表など）



質問 15 教員は授業の準備を周到に行っていた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いにそう思う

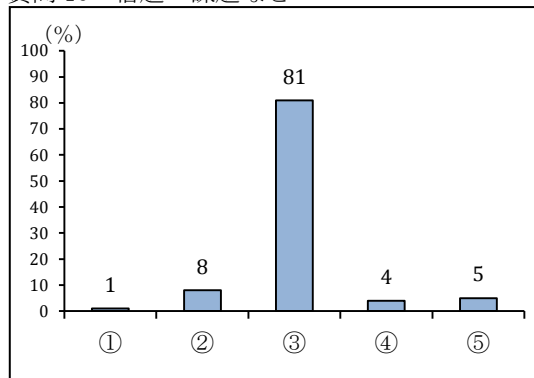
質問 15 教員の授業準備



質問 16 宿題・課題など授業外に必要な学習の時間や量は適切だったか

- ① 多すぎる
- ② すこし多い
- ③ 適切である
- ④ すこし少ない
- ⑤ 少なすぎる

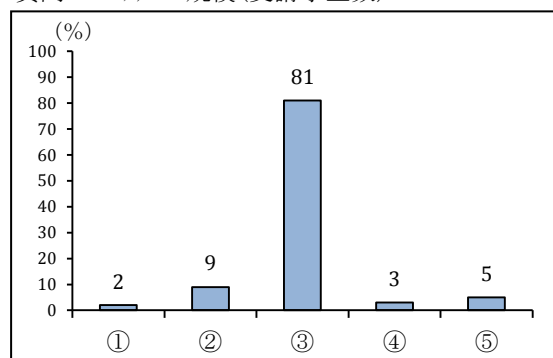
質問 16 宿題・課題など



質問 17 クラスの規模（受講学生数）は適切
だったか

- ①多すぎる
- ②すこし多い
- ③適切である
- ④すこし少ない
- ⑤少なすぎる

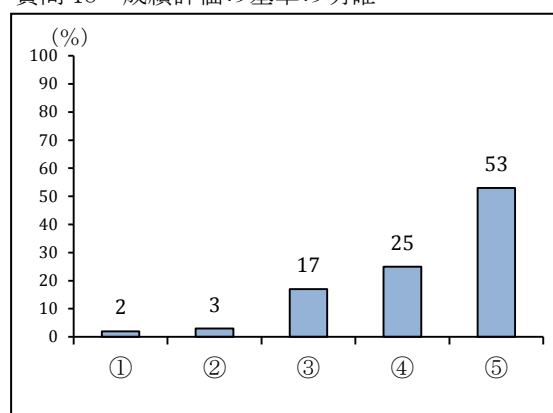
質問 17 クラスの規模(受講学生数)



質問 18 成績評価の基準を明確に示して
いたか

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

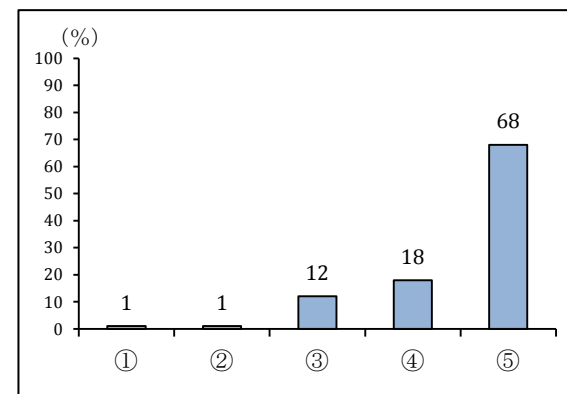
質問 18 成績評価の基準の明確



質問 19 授業実施教室（広さ・明るさ・設
備・視聴覚機器の配置）は適切で
あったか。

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

質問 19 授業実施教室は適切か



本質問項目群は、狭義の授業評価アンケートと言えるもので、教員の授業技術、方法、内容などを問うものとなっている。質問 7 の「聞きやすい話し方」、質問 8 の「各回の授業内容の量」、質問 9 の「各回の授業内容は明確さ」、質問 10 の「授業を乱す行為への対応」、質問 13 の「板書の仕方（パワーポイントなど）」、質問 15 の「教員の授業準備」は、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計がいずれも 85% を超え、高い評価を得ている。これらの結果から、概ね、学生の満足を満たす授業運営がなされていると言えよう。また、2015 年度前期、2014 年度後期の結果と比較してみると、ほぼ全ての項目でポイントの上昇が確認され、経年ごとに改善が図られていることが伺える。

しかし、質問 16 「宿題・課題などの量」について、81% の学生が「③適切である」

と回答している点は看過できない。質問6の「週平均の授業時外学習時間」の結果が、「①ほぼ0時間」が26%、「②1時間未満」が37%と、学習時間が1時間に満たない学生の割合が63%を占めていることと照らし合わせると、本当の意味で宿題・課題の量が適切であるか疑わしい。宿題・課題の準備についても、授業の準備と同様、周到になされる必要があると言えるだろう。

また、質問18「成績評価の基準の明確さ」については、「⑤大いにそう思う」(53%)、「④そう思う」(25%)の合計が、本項目群で唯一80%を下回っている。過年度の結果(2014年度後期・2015年度前期)も同様の値を示しているが、自律的な学びの観点からも、目標設定と関連する成績評価の基準を明確に示すことは肝要である。シラバスへ明記すると共に、適宜確認するなど、改善に向けた努力・工夫が必要である。

さらに、教育環境の適切さを問う質問に関しては、質問17「クラスの規模」で81%の学生が「③適切である」と回答し、質問19「授業実施教室の適切さ」では、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計が86%と、高い評価となっている。今後も、教務と連携し、各クラスに適切な学生数の配置・教育環境の提供ができるよう努めていきたい。

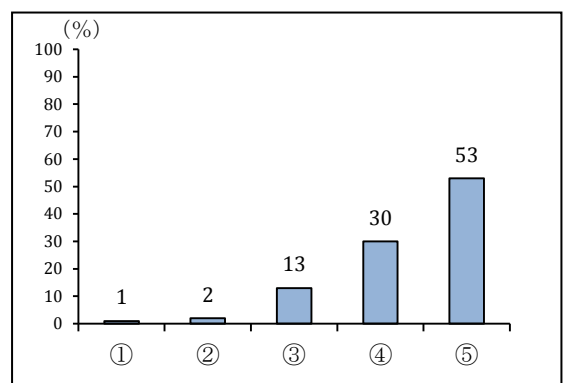
本質問項目群に関しては、前・後期で結果に大きな違いが確認された。前年度(2014年度)後期については、総じて、本年度(2015年度)後期と同様の結果であったが、本年度前期は、全ての項目で、2~8ポイント低い値となっていた。前・後期で違いが見られる点については、今後、その要因を分析・考察する必要があると思われる。

Ⅲ.授業を受けて得たもの(質問20~22)

質問 20 新しい考え方・発想を獲得した/今まで持っていた能力を向上できた

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

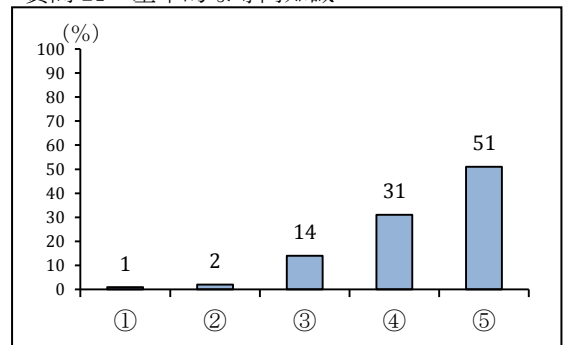
質問 20 新しい考え方・発想/能力の向上



質問 21 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識を得ることができた。

- ①そう思わない
- ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない
- ④そう思う
- ⑤大いにそう思う

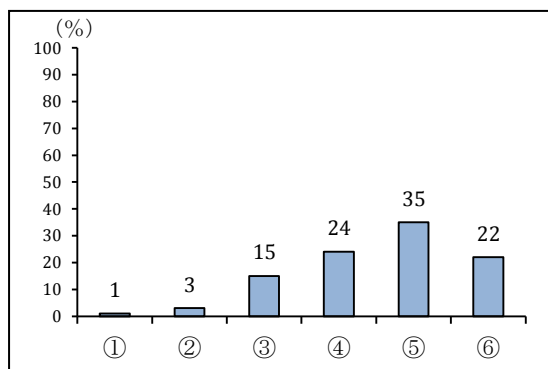
質問 21 基本的な専門知識



質問 22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術
(発表・レポート) を得ることができた。

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

質問 22 意見をまとめて他者に伝える技術



本質問群は、達成度に対する学生の自己評価を測る質問から成るが、質問 20 「新しい考え方・発想/能力の向上」及び質問 21 「基本的な専門知識を得る」は、何れも、「⑤大いに思う」・「④そう思う」の合計が 80% を超え、高評価となっている。前年度 (2014 年度) 後期の結果も同様の結果を示しているが、それとは対照的に、今年度 (2015 年度) 前期の結果は、何れも 80% を下回っており、本質問群においても、前・後期で結果に違いが見られることが確認された。

本学で提供されている授業は、「知識の習得」を主たる目的とする授業と、「技能の習得」を主たる目的とする授業とに大別することができるが、前期で配置されている授業の特性が、後期のそれと大きく異なっているとすれば、自ずと本質問群の結果にも違いが生じることが予想される。即ち、「技能習得型」の授業が後期より前期に多く設置されているのであれば、質問 20 や質問 21 に対する値は低いものになることも大いに考えられる。より正確な結果を得るためには、授業の特性を踏まえ、結果の集計を両者に分けて行う必要があるのではないだろうか。

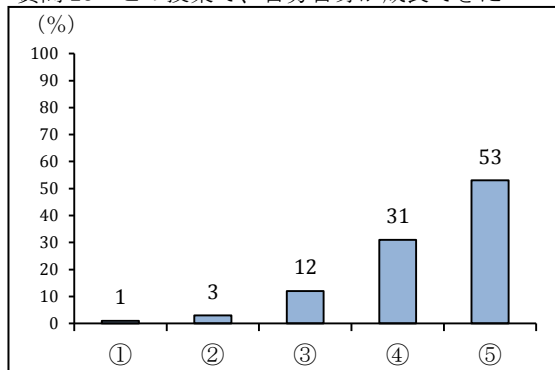
教員に対する評価に対し、学生の達成度に関する自己評価が低いという指摘が過去の分析においてなされているが、「知識習得型授業」と「技能習得型授業」といった特性の異なる授業の結果が混在していることに起因すると考えることもできるのではないだろうか。

IV. 授業の総合的な評価 (質問 23 ~ 26)

質問 23 この授業をつうじて、自分自身が成長できた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

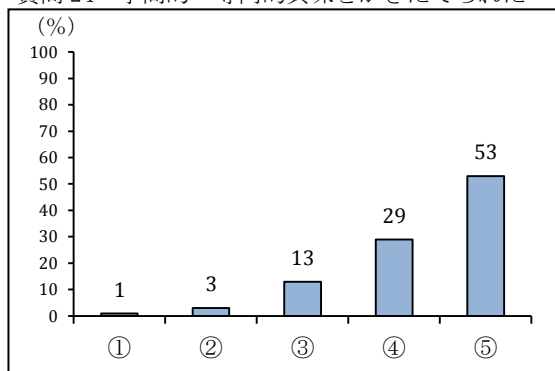
質問 23 この授業で、自分自身が成長できた



質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

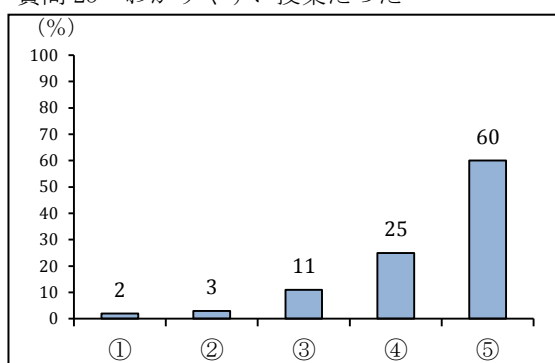
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた



質問 25 わかりやすい授業だった

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

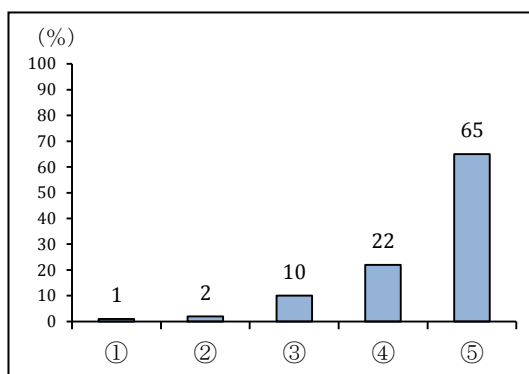
質問 25 わかりやすい授業だった



質問 26 この授業を受けて満足した

- ① そう思わない
- ② あまりそう思わない
- ③ どちらともいえない
- ④ そう思う
- ⑤ 大いに思う

質問 26 この授業をうけて満足した



本質問群は、授業の総合的な評価を問うもので、学生の自己評価と教員に対する評価とから成っている。自己評価に分類される質問 23 「この授業で、自分自身が成長できた」については、「⑤大いに思う」・「④そう思う」の合計が 84% と、高評価となっている。また、教員に対する評価に分類される質問 25 「分かりやすい授業だった」に関しても同様に、「⑤大いに思う」・「④そう思う」の合計が 85% と、高評価を示している。過去の分析において、教員に対する評価に比べ、自己評価が低い傾向にあることが指摘されていたが、本年度の結果を見る限り、質問 23 と質問 25 の差はわずか 1 ポイントで、状況は改善されてきていると言えそうだ。

一方、前・後期で比較してみると、本年度（2015年度）前期における質問 23 の結

果は、「⑤大いにそう思う」・「④そう思う」の合計が78%、質問25の結果が79%と、何れも80%を下回っている。昨年度（2014年度）後期の結果が、質問23で81%、質問25で83%であったことと照らし合わせてみると、やはり、前・後期で明白な差異が認められる。前質問群「Ⅲ. 授業を受けて得たもの（質問20～22）」の考察においても言及したように、授業はその特性によって、「知識習得型」と「技能習得型」とに大別される。一般に、知識の習得に比べ、技能の習得は時間を要すると考えられるが、その違いが、前・後期における本質問群の結果の差異にも反映されていると推察される。即ち、「技能習得型」の授業が多く設置されていれば、自己の成長に対する評価は、「知識習得型」授業が多く設置されている学期に比べ、相対的に低くなる可能性がある。従って、本アンケートの分析においては、単純に経年比較するのではなく、授業の特性にも留意する必要があると思われる。

質問24の「学問的・専門的興味をかきたてられた」については、「⑤大いにそう思う」（53%）・「④そう思う」（29%）を合わせると82%に達する。前年度（2014年度）後期の合計が79%、今年度（2015年度）前期の合計が75%であるが、これらの結果から勘案すると、教員側の意識改革や努力が図られ、それが改善につながっていると評価できるのではないだろうか。前期の数値が低いことに関しては、前述の通り、授業の特性がその背景にあると考えられる。

最後に、質問26の「この授業を受けて満足した」については、今年度後期が「⑤大いにそう思う」（65%）・「④そう思う」（22%）を合わせて87%となっているが、前年度後期の85%、今年度前期の80%と比較しても極めて高い評価となっており、着実に改善の跡が伺える。これも、授業改善アンケートの取り組みが個々の教員の授業改善の材料となり実を結び始めていることの表れと言って差し支えないのではないだろうか。

2 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③教員が用意した質問の3つの設問から構成されている。数値からは知り得ない学生の生の声・本音に触れられるところが、自由記述評価の長所・利点と言えよう。質問27「この授業で良いと思ったこと」では、授業運営における教員の意図が学生に伝わっているかどうかといったことについても確認することができる。また、質問28「この授業で改善すべきだと思った点」では、文字通り授業改善に資する有益な意見や提言を得ることができる。そのような意義を踏まえ、授業改善に資する資料を得る目的で、2014年度に見直しを図った。具体的には、記述スペースを広くし、質問29「教員が用意した質問」を追加した。

質問29は、教員自ら用意する質問だが、今学期は、「一番印象に残ったトピックをあげあなたが学んだこと」、「自分の英語スキルを伸ばす為に、どんな勉強がしたいですか?」、「英語力で成長できたところ」、「グループワークで学んだことは。将来の職業と関連して受講できたか。」などの質問が散見された。このような質問

は教員側にとっても今後の教材開発や授業運営に役立つ貴重な資料となり得るものであるため、学部側としてもより多くの教員がこの欄を有効活用するよう奨励したい。

2014年度より、学生によるコメントだけでなくアンケートの数値に関しても、教員の応答コメントとともに学内HPに公開しているが、授業改善アンケートの数値・コメントが公開され、学生・同僚の目に触れることになったことで、教員においては、これまで以上に担当科目に真摯に向き合う姿勢が醸成されていくことが期待される。この情報公開のシステムは、教員による自己管理・授業改善の努力を促す役割も担い、それが上手く機能していると思われる。

一方、アカデミックハラスメントなどの対応については、教員の自己管理を超えて、管理職により、またそれに対応する委員会などが迅速に行うものとする。しかし授業改善アンケートの一義的な目的は、教員による授業改善の努力を促すものである。

学生からの記述によるコメントの中には、少数ながら教員への礼を失する内容のものもあり、誹謗中傷に該当するものに関しては、企画推進課および学部長・学科長の判断で公開は取りやめた例も過去にはある。しかしながら、学生からのコメントが安易な中傷目的ではなく、複数から同様にネガティブなコメントが寄せられた場合は、直接学部長や学科長に報告され、必要に応じて教員とミーティングを持ち、改善策や反省点などを話し合うことになっている。この方法は、コメントによって教員を傷つけるのではなく、改善を第一に考えた手続きであり、これからもこのような取組を通して、更なる改善の努力を続けたい。

公開される本冊子においては、教員名は教員コードに書き変えてある。個々の記述内容、および教員の改善に向けてのコメントは、第2章に掲載してある教員と学生との対話をご確認いただきたい。

おわりに

「授業評価の概要」で、アンケート数値から推察される本学部の課題については述べたので、ここでは、今回で2年目になる新しい授業改善アンケートの実施に関して、全般的な評価と課題の2点に言及したい。

まず、新アンケートを導入した前年度に比べ、リニューアルの理念・趣旨について教員及び学生に周知徹底を図ることが出来たと思われる。初年度は、教員からのコメントの回収が遅れ、学内HPにおける学生への結果公開（リプライ）に多くの時間を要した。しかし、今年度は、学生の授業評価に対する教員コメントの回収が迅速に行われ、学生への公開も速やかに行うことができた。これらは、新アンケートの趣旨が理解され、浸透してきた結果と言えよう。

教育的効果という観点からも、学生の回答に対する教員のコメントは時間を置かず即座になされることが望ましい。一方、アンケート実施後、業者によるデータ入力、教員へのアンケート結果の配布、学生の回答に対するコメントの記入・回収など、いくつかのプロセスを経て情報公開に至るため、ある程度の時間を必要とすることは否

めない。しかしながら、迅速で適切な対応の有無が、学生の修学意欲を大きく左右することもある。従って、今後もシステムを浸透させ効率よくアンケートを実施、公開するよう努めていきたい。

次に、課題としては、アンケート調査から得られた結果数値の的確な分析方法の検討と、分析によって示された問題点・課題の共有や改善策に対する議論の必要性が挙げられる。例えば、「授業評価の概要」でも触れたように、前期・後期で結果の数値に顕著な差が見られるが、縦断的に分析する場合は、同一学期の結果を比較するなど、基準を設けた方がより正確な現状の把握に繋がると思われる。また、必修科目と選択科目との区別や、知識習得型授業と技能習得型授業との区別など、分析方法に関しては、多くの検討の余地がある。

今後は、このアンケート調査の結果を有意義な情報にするために、効果的なデータ分析方法を考え、またその情報も公開出来るように企画推進課と連携していきたい。また、リニューアルされた授業改善アンケートが、個々の教員の授業改善の材料となり、学部の教育力の向上に繋がり、学生の修学意欲を高めるヒントになればと思う。

沖縄キリスト教学院大学 授業改善アンケート

このアンケートは、沖縄キリスト教学院大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。アンケートは、適切に処理されたうえで各教員に配布され、各教員が生データを見ることはありませんので、あなたの成績評価に影響することはありません。大学を構成する重要な一員である学生として、皆さん自身が大学教育をより良いものにするという意識のもとに、率直かつ責任を持って回答して下さい。集計されたデータは、本学 HP で公表され、全学生・教職員が確認できます。また、教員からの全般的な応答も確認できます。他の学生の授業履修の参考材料にもなりますので責任を持った記述をお願いします。

<履修動機についての質問>

質問1 この授業を履修した動機を最も適切なものを3つ選択して下さい。	選択肢	
①授業内容に関心があったから	1	2
②教員に魅力があったから	3	4
③単位がとりやすそうだから	5	6
④友だちが多く履修しているから	7	8
⑤自分の専門に関係が深い分野だから	9	10
⑥幅広い教養を身につけるため		
⑦先輩に勧められたから		
⑧希望授業が取れなかったので仕方なく		
⑨必修（あるいは免許取得に必要）だから		
⑩その他		

<数値による評価>

以下の項目に対して、あなたにとって5段階のどの評価であるか、評価欄のあてはまる数字に○をつけて下さい。

- ①そう思わない ②あまりそう思わない ③どちらともいえない ④そう思う ⑤大いにそう思う
⑥質問がこの授業には該当しない

I この授業へのあなたの取り組みについて、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問2 授業全体を通じての欠席回数は何回くらいですか ①4回以上 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤皆出席	1 2 3 4 5
質問3 私語・居眠りなどせずに真面目に授業に参加した	1 2 3 4 5
質問4 この授業の履修にあたって十分な準備ができていた（どのような授業か調べて履修したか、自分の学力レベルにあっているかを確認したか、など）	1 2 3 4 5
質問5 授業をきっかけにして自分自身で発展的な学習をした	1 2 3 4 5
質問6 この授業に関連して、授業時以外に学習した時間（平均して1週間で） ①ほぼ0時間 ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上	1 2 3 4 5

II この授業の進め方などに関連して、以下の項目にどの程度当てはまりますか。	評価欄
質問7 聞きやすい話し方だった（スピード・音量・マイクなども含む）	1 2 3 4 5
質問8 各回の授業内容の量が適切だった	1 2 3 4 5
質問9 各回の授業内容は明確だった	1 2 3 4 5
質問10 教員は授業を乱す行為（私語・携帯電話・メール・居眠り・中座等）に対して適切な対応をした	1 2 3 4 5
質問11 教科書（難易度・使用頻度など）は妥当であった	1 2 3 4 5 6
質問12 補助教材（授業プリント・視聴覚教材）は効果的であった	1 2 3 4 5 6
質問13 板書の仕方（あるいはパワーポイントなど）は適切だった	1 2 3 4 5
質問14 教員は説明中心な講義法以外の教授法（討論・発表など）を必要に応じて適切に用いていた	1 2 3 4 5 6
質問15 教員は授業の準備を周到に行っていた	1 2 3 4 5
質問16 宿題・課題など授業外に必要な学習の時間や量は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問17 クラスの規模（受講学生数）は適切だったか ①多すぎる ②すこし多い ③適切である ④すこし少ない ⑤少なすぎる	1 2 3 4 5
質問18 成績評価の基準を明確に示していたか	1 2 3 4 5
質問19 授業実施教室（広さ・明るさ・設備・視聴覚機器の配置）は適切であったか	1 2 3 4 5

Ⅲ この授業からあなたは次のものを得ることができたと思いますか。	評価欄
質問 20 新しい考え方・発想を獲得した／今まで持っていた能力を向上できた	1 2 3 4 5
質問 21 授業で扱った分野に関する基本的な専門知識	1 2 3 4 5
質問 22 自分の意見をまとめて他者に伝える技術（発表・レポート）	1 2 3 4 5 6

Ⅳ 総合的に見て、この授業は以下の項目にどの程度あてはまりますか。	評価欄
質問 23 この授業を通じて、自分自身が成長できた	1 2 3 4 5
質問 24 学問的・専門的興味をかきたてられた	1 2 3 4 5
質問 25 わかりやすい授業だった	1 2 3 4 5
質問 26 この授業を受けて満足した	1 2 3 4 5

<記述による評価>

みなさん自身が授業をより良いものにするという意識のもと、率直かつ責任を持って記入して下さい。みなさんの回答は、教員が読み、授業改善の参考にします。無責任な誹謗中傷は厳に慎み、真摯な回答をお願いします。もちろん成績にはいっさい影響しません。

質問 27 この授業で良いと思ったことがあれば書いて下さい。

質問 28 この授業で改善すべきだと思った点があれば、実現可能な改善案を具体的に書いて下さい。

質問 29 教員が用意した質問【 】

科目名： _____ 学籍番号： _____ 学年 _____ 性別（男 女） 入試区分（一般 推薦 AO） _____